



史跡

しんめいかいづか

神明貝塚

令和二年三月一〇日指定

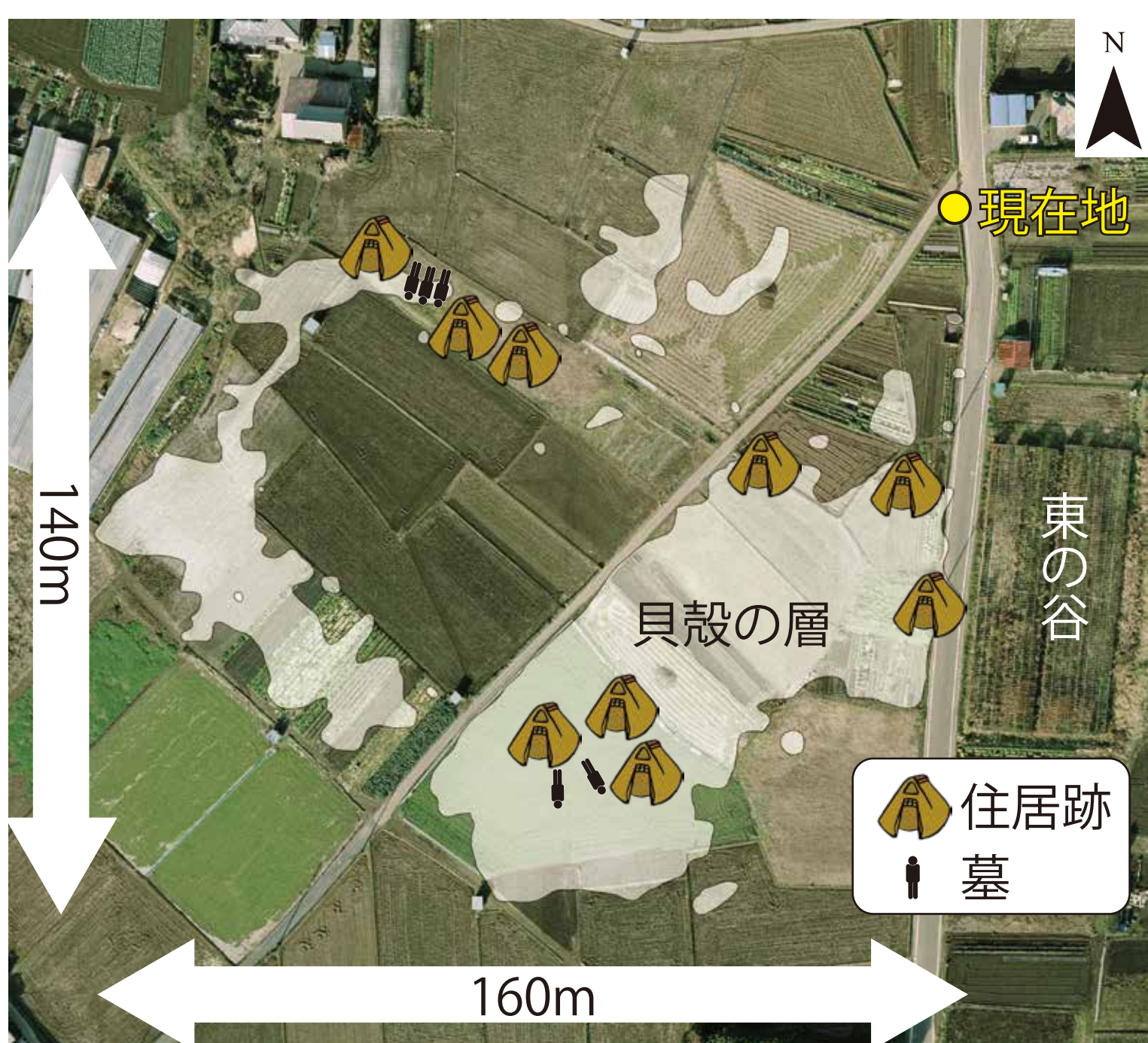


春日部市
公式HP

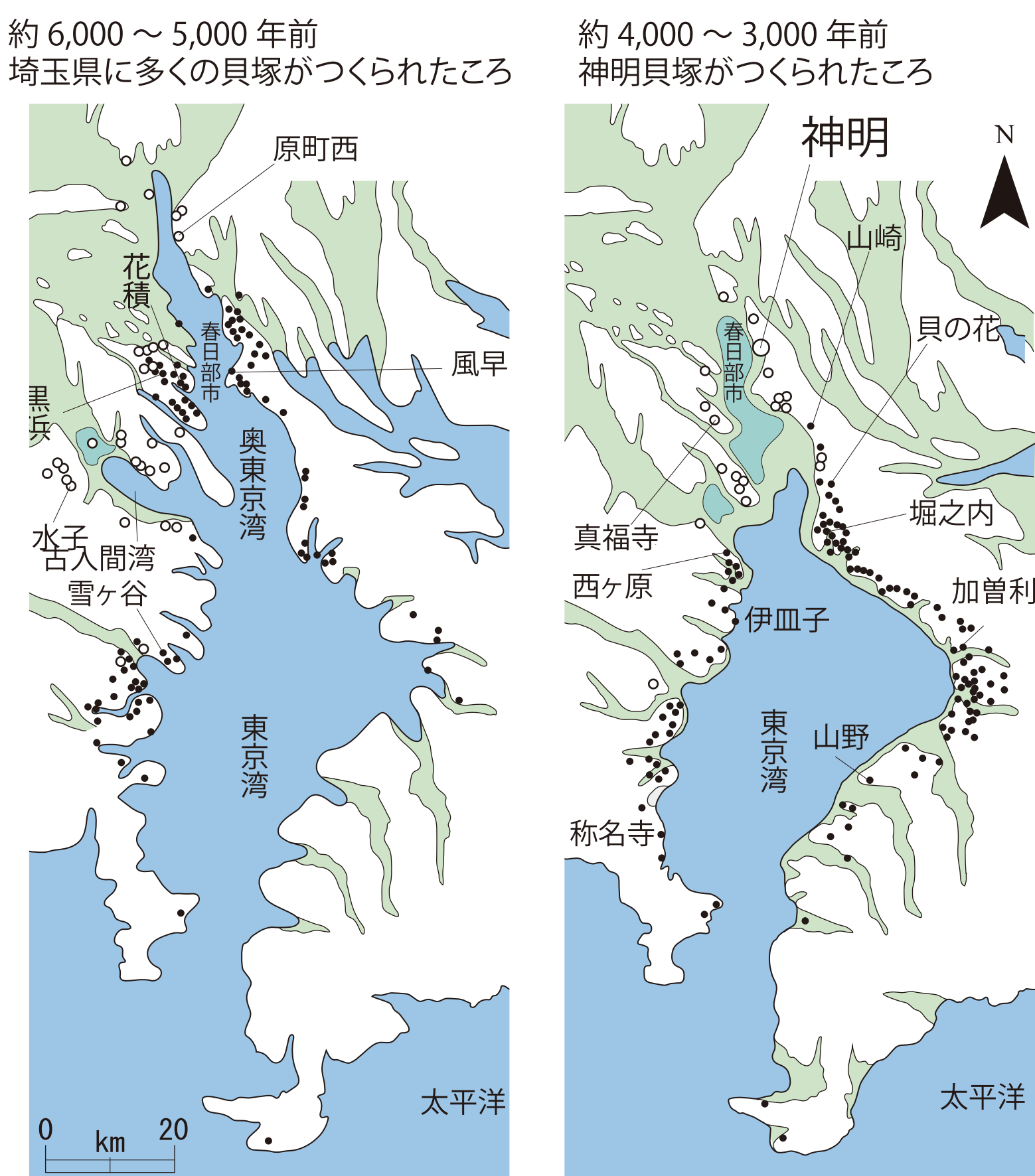
神明貝塚は、縄文時代の後半、今から約三八〇〇〇～三五〇〇年前の集落の跡で、当時の人々が食べた貝の殻や動物の骨などが広がり、住居跡や墓が発見されています。標高一〇メートル前後の平坦地に立地し、東側には中川低地へ通じる谷（東の谷）が広がります。大きさは東西一六〇メートル、南北一四〇メートルと大型で、ドーナツ形をしています。

今から約六〇〇〇年前、市域には奥東京湾と呼ばれる海が広がり、多くの貝塚がつけられました。約五〇〇〇年前頃から海岸線が南へ下がり、神明貝塚の辺りは、海水と淡水が混じり合う汽水域へと環境が変化しました。貝塚から見つかる貝殻のほとんどは汽水性のヤマトシジミで、このほかに、魚や鳥、イノシシなどの骨、クリやクルミなどの木の実の殻、土器や石器が見つかり、縄文人の豊かな食生活が明らかとなりました。

神明貝塚は、集落のほぼ全体が良好に保存されており、縄文時代の人々の暮らしを知るうえで非常に重要な遺跡であることから、令和二年（二〇二〇）三月に国の史跡に指定されました。



空からみた神明貝塚



東京湾の海岸線と貝塚分布の変化

許可なく土器や貝殻などを掘り起こしたり、持ち帰ったりしてはいけません。文化財保護法等により処罰されることがあります。

令和七年十月
春日部市教育委員会